



亀岡福祉会合同新年会 ～今年はリモートで行いました!～



去る1月8日に恒例の法人合同新年会を開催しました。今年度は新型コロナウイルスの感染の広がりやメンバ―の仕事や日々の生活に大きな影響が出ただけでなく、旅行など楽しみにしていた行事も中止になってしまいました。そんな中で、コロナに負けないよう、笑って新年を迎えたいという思いで今年も開催しました。例年のような全体が集まった開催とはいきませんが、各事業所をリモートで結んで開催しました。こういったリモートでの

行事開催は法人内では初めてで、メンバ―は物珍しうに画面越しに手を振ってみたり、「お父さんがよく仕事でやってるで」と、この時期ならではの感想を抱いている人もいました。

新年会は実行委員長の八田さんや司会の中澤さんの活躍もあり、順調に進んでいきました。各事業所の発表ではそれぞれ画面越しでも楽しんでもらえるような工夫が凝らされて、楽しいものになっていました。新メンバ―や、成人や米寿を迎えたメンバ―には、画面越しにみんなでお祝いしました。新人職員の出し物は事前に撮影した動画だからこそできる、楽しいものになりました。

例年とは違った開催でしたが、楽しい時間を過ごしました。しかし感想を聞くときに「できればみんなで集まりたかった」という意見も多くあり、みんなで集まるのが、いかに大切なのか実感しました。来年こそはコロナの流行も落ち着いて、みんなで集まって開催できるといいなと思います。

「自分は一人暮らしやから、誰かと話をするのが楽しみ」 ～地域活動支援センター絆の取り組み～



地域活動支援センター絆は2014年に開設をして、7年目になります。一人暮らしの方、福祉的就労や一般就労されていない方の居場所として、また、社会に出る一歩として利用されている方が多くおられます。

今年度はコロナに振り回された年でもあり、来所されたら手洗い消毒、体温測定を行い、血圧や顔色なども見せてもらいながら、安心して利用をしていただけるように努めています。

外出取り組みがなかなかできない日々ですが、室内でも楽しめるようにと、先日、絆の利用者と職員によるピアノとギターセッションを開催しました。少しメロディーを口ずさむだけで「ポロン

ポロン」とピアノで音楽を奏で、それにギターと歌を合わせて、即興コンサートが始まりました。青い山脈から紅蓮華(鬼滅の刃の主題歌)まで、心地よい音色に心が和みます。普段はおとなしい利用者さんが「きやつきや」と楽しそうに笑いながら演奏する姿に自然と周りの雰囲気明るくなりました。

コロナ禍での生活ではありますが、「明日も居るか?私はこちらで」「今日の料理は何や?」「次の演奏曲練習しておきませぬ」と、「絆」という場所ですとつながりたいという利用者の思いを大切に、できるだけあたりまえの日常が過ごせるよう工夫をしていきたいと思います。



「ちょっと聞いてよ！」

第31回
もり まさき
森 祐樹さん
(きらきらホーム)



今回は、7月に開所した亀岡福祉会初の自活型ホーム「きらきらホーム」で生活をされている、かめおか作業所の森 祐樹(もりまさき)さんに話を聞きました。

「きらきらホームはどんなところですか？」

「5人のメンバーで暮らしています。部屋は別々(マンション型)です。キーパーさんが毎日夕食を作ってくれてみんなで一緒に食べます。いつもにぎやかです。」

「きらきらホームで生活を始めて半年が経ちました。新しい生活はいかがですか？」

「毎日がとても楽しいです！洗濯が自分でできるようになって嬉しいです。朝ごはんや休みの日の食事もがんばって作っています。」

「実家に住んでいた頃と変わったことはありませんか？」

「なんでも一人でやらなければいけないことです。こんなにも大変だとは思っていませんでした。洗濯や料理も親にやってもらっていました。感謝しています。一人で暮らすことは大変ですけど楽しいです。」

「これからきらきらホームでやってみたいことはありますか？」

「もつと料理がうまくなりました。いろんな料理を作ってみたいです。」

「これからの夢や目標はありますか？」

「いつまでもきらきらホームで暮らせるように少しずつお金を貯めています。そのためにかめおか作業所でたくさん給料がもらえるように仕事もがんばりたいです。」

小学校のみなさんと福祉交流学習

亀岡福祉会の各作業所では、小学生が障害のある人たちの理解を深めることや、障害のある人たちの生き方に学ぶことなどをねらいにした福祉交流学習が行われています。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため中止ざるをえませんでした。しかし本梅小学校よりぜひ実施して欲しいとのお声をいただき、「生徒の皆さんは作業所に来ない」「職員1名が学校に訪問してお話をする」という形で行うことになりました。

最初に職員から「作業所って何？いつ、なぜできたの？」「障害って？社会にはどんな不便があるの？」「第二かめおか作業所はどんなことをしているの？」という話をしました。生徒の皆さんは熱心に話を聞き、話の中で「小学校の玄関に回収ボックスがあります。実は毎月回収に来てるんですよ」と話すと「知らなかった！」と驚いていました。また発言を求めるとハイ！と手を挙げ答えてくださっていました。話し終わると残りの時間は質問タイム。話を聞いて働いてみたい！と思っただ生徒さんが、職員の給料はいくらですか？と質問されたのには驚きました。

今回の交流が一時の体験に終わることなく、小学生の皆さんがこれから先、障害のある方に優しく接することができる大人になってくれればと思います。



